

---

記者資料提供（令和2年5月2日）

神戸市民病院機構 久戸瀬、三宅 TEL：078-940-0149

神戸市立医療センター中央市民病院 小林、阿部 TEL：078-302-4321

---

## 「匿名化保存血清を用いた、外来通院患者における COVID-19 IgG 陽性率を推定する横断研究」について

---

神戸市立医療センター中央市民病院において、4月26日に当院感染症科 医長 土井 朝子が筆頭研究者として発表しました、当院の外来受診患者1,000人の血液検体を利用した研究について、下記のとおり発表します。

### 1. 背景と目的

COVID-19 パンデミックは本邦でも患者数の増加が続いており、社会的にも医療的にも重大な影響を及ぼしている。一方、本邦における正確な有病率は不明である。本研究は SARS-CoV-2 抗体を横断的に測定し、神戸市における血清有病率を推定した。

### 2. 方法

後ろ向き横断研究。2020年3月31日～4月7日に神戸市立医療センター中央市民病院の一般外来（救急部または発熱外来を受診した患者を除く）で採血され、そのうち残余血清を得た1000検体を用いて SARS-CoV-2 抗体（IgG 抗体[イムノクロマト法]：RCNC002, KURABO Industries Lt）を測定した。性別、10歳ごとの年齢以外の患者個人情報を消去した。当院倫理委員会の承認を得て実施した。

### 3. 結果

1,000の血清検体のうち、33検体でIgG陽性であった（3.3%、95%信頼区間2.3-4.6%）。この数値を神戸市の国勢調査（人口151万8870人）に当てはめると、IgG抗体陽性の人口は5万123人（95%信頼区間3万4934～6万9868人）となる。年齢および性別で調整した陽性有病率は、2.7%（95%信頼区間1.8-3.9%）であり、神戸市人口に換算すると4万999人（95%信頼区間2万7333人～5万9221人）となる。

### 4. 解釈

これらの数値は、神戸市におけるPCR陽性確定例の396～858倍の数値である。用いた抗体の特異度を信頼すると、神戸地域で感染拡大期に当たった4月上旬において、既に3%程度の市民がCOVID-19に感作されていたことになる。その規模は我々の今日の常識的理解とは乖離している。一方世界の感染地域から報告される非確定情報のレベルとは矛盾しない。IgG抗体は過去の曝露を反映するものであり、現在ウイルスの存在を示すPCRとは意義が異なる。また今回の対象者は本院外来受診者であり人口全体を反映する集団とするにはさまざまな偏りがある。これらのために、結果の解釈には慎重でなければならない。このような予

備的なデータを参考にしつつ今後は人口全体を正確に反映する集団に対して計画的に検査を実施し実態を確認する必要があると考えられる。